



ごだいごてんのう 後醍醐天皇は、どんな人だったの



武士による政治を、天皇による政治にもどそうとして失敗したが、^{よしの}吉野にこもって戦い続けた天皇だよ。

後醍醐天皇は1288年に、大覚寺統^{だいかくじとう}（^{かめやま}龜山天皇の系統）の^{こうだ}後宇多天皇（88代）の^{おうじ}第二皇子として生まれました。名前は^{たかはる}尊治です。1318年に、31歳で^{さい}第96代天皇になりました。

^{かまくらばくふ}鎌倉幕府をたおそうと努力した

後醍醐天皇は、^{そう}宋（中国）のような政治のしくみをつくることを、理想としました。それは、^{いえがら}家柄によらず、^{たか}才能のある人を重要な地位につけ、^{こうてい}皇帝がすべての権力をにぎって、自由に政治を行うしくみです。そのため、鎌倉幕府をたおそうと計画しましたが、計画がもれて、^{おき}隠岐（^ぬ島根県）に流されました。それでも島を抜け出して、^{せんじょうさん}船上山（^ぬ鳥取県）で幕府をたおすための兵を集めました。

天皇による新しい政治に、武士が不満をもった

鎌倉幕府がたおれると、後醍醐天皇は、自分の理想とする政治を始めました。しかしその新しい政治は、^{むし}武士の社会のならわしを無視するものだったので、武士の^{あしかがたかうじ}不満が高まり、1336年に^{あしかがたかうじ}足利尊氏によって新政府がたおされました。

吉野で南朝を開いたが、無念の病死をした

後醍醐天皇は、^{じみょういんとう}持明院統（^{ごふかくさ}後深草天皇の系統）の^{こうみょう}光明天皇に、^{さんしゅ}三種の神器をゆずることになりましたが、それにもめげず、京都を抜け出して、吉野（^{じんの}奈良県）で^{ちやうてい}朝廷を開きました。しかし、この南朝は、しだいに勢力がおとろえ、1339年8月には、後醍醐天皇が病死しました。「^{たいへいき}太平記」という軍記物語には、「朝廷の敵をほろぼして、平和にできなかったことが残念だ」などの^{ゆいごん}遺言を残し、左手にお経を、右手に^{つるぎ}剣をもって^な亡くなられた、と書いてあります。